

学力向上のための重点プラン【中学校】

■ 学校の共通目標

授業作り	重点	・生徒に見通しをもたせ、振り返りをさせる授業展開の推進を図る。 ・生徒が主体的・対話的に学び、その学びを深める授業スタイルへの転換を図る。 ・教員及び生徒の双方がICT機器を効果的に活用する授業の実現を図る。	中間評価		最終評価
		・日常的な協働活動を通して、自分を磨き、仲間とともに伸びる善意の集団を育成する。 ・教室をはじめとする校内環境を整えるとともに、教職員によるきめ細かい見取りを行い、生徒の健全育成を推進する。			

■ 教科の取組み内容

教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
国語	<p>調 2学年・3学年ともに全国の平均正答率を上回っており、新宿区学力定着度調査の結果は良好であった。しかし、問題の内容別正答率では、2学年で一部、全国平均を下回っているものがある。</p> <p>調 2学年は、領域別に見ると全ての項目で目標値を上回っており、特に「書くこと」においては目標値を6.2ポイント上回っている。ただし、問題の内容別正答率をみると「漢字を読む」問題のみ目標値を5.5ポイント下回っており、文章の理解力の向上が課題となった。</p> <p>調 3学年は領域別に見ると全ての項目で目標値を上回っている。しかし、基礎力の標準スコアが前年度より2ポイント下降しており、問題の内容別正答率から考察すると漢字にかかわる力が他の内容に比べて課題があることがうかがえる。また、「話すこと・聞くこと」の領域は前年度より標準スコアが22.9ポイントも上昇しており、力が定着してきたことがわかる。</p>	<p>・新出漢字や作文の学習において、生徒によって定着度に差がある。</p> <p>・2学年は、「話す・聞く」場面において、臨機応変な対応や瞬間的な判断を苦手とする生徒が多く、練習や経験を積み重ねることが必要である。</p>	<p>・個別の声かけや対策を行う。週一回程度の書き取り練習課題や小テストを課したり、作文の誤字チェックを行ったりするなど工夫する。また、文章を月二回程度書かせ、習得した漢字や語句を自分の言葉として扱う機会を増やしていく。</p> <p>・練習や経験を積み重ねることができるよう授業内やスピーチ前の練習の際に、個別に支援を行う。</p>		
社会	<p>調 2学年は全国の平均正答率を2.1ポイント下回っている。3学年は全国の平均正答率を4ポイント上回っている。</p> <p>調 2学年は、領域別正答率の「世界各地の人々の生活と環境」においては全国の正答率を1.5ポイント上回っているが、その他の項目においては全国の正答率より下回っている。</p> <p>調 2学年は「活用」の領域で全国平均を1ポイント上回っている。一方で「基礎」の領域では全国平均を2.9ポイント下回っている。</p> <p>調 3学年はほぼ目標値を上回っているものの、領域別正答率の「日本の地域構成」のみ全国平均を1ポイント下回っている。</p> <p>調 3学年は「基礎」の領域で全国平均を3ポイント、「活用」の領域で全国平均を7.7ポイント上回っている。一方で、領域別正答率の「日本の地域構成」のみ、全国平均を1ポイント下回っている。</p>	<p>・2学年は、既習事項の定着に不安がある生徒がみられるので、基礎的基本的事項の復習が必要である。</p> <p>・3学年は、「活用」の領域と比較して「基礎」の正答率を高める必要がある。また、2学年で学習を終えた地理的分野の一部の領域を復習する必要がある。</p>	<p>・2学年は、基礎・基本の定着を促すために、単元ごとに復習に取り組み、授業内での確認を行っていく。</p> <p>・3学年は、ワークブックを定期考査ごとに活用し、語句をはじめとした基礎・基本を徹底して定着させていく。また、年度末に3年間を振り返る課題を与え、既習領域の定着を進めていく。</p> <p>・個別の声掛け・支援をさらに行っていく。</p>	<p>・2学年は、ワークブックを予習として活用し、単元終了時には復習としても活用し、基礎基本の定着をねらった。</p> <p>・3学年はワークブックを夏休み課題として提出させた。今年度区学力調査では「基礎」の正答率が全国平均を5.6ポイント上回った。昨年度の3ポイントから2.6ポイント増加し、取り組みの成果が出つつある。年度末に行う予定の3年間の振り返り課題は3学期の時期をみて実施していく。</p> <p>・個別の声掛け、支援を一層徹底していく。</p>	
数学	<p>調 2学年は全国の平均正答率を3.5ポイント上回っており、どの領域も総じて全国の平均正答率を上回っている。相対的には図形の分野の正答率が低めである。3学年は全国の平均正答率を10.3ポイント上回っており、どの領域も総じて全国の平均正答率を上回っている。相対的には図形の分野の正答率が低めである。</p>	<p>・単元ごとの小テストや定期考査では学習効果がみられるものの、既習事項の定着を確実にする必要がある。</p>	<p>・直近の学習内容と関連付けるなど工夫しながら、既習事項が定着しているか授業内を中心に単元ごとに確認していく。</p>		

理科	<p>調 2学年は、全国の平均正答率を1ポイント下回った。領域別正答率を見ると、「エネルギー」の領域では、全国平均を3.5ポイント上回ったが、他の領域では全国平均を下回っている。</p> <p>調 3学年は、全国平均を1.6ポイント下回ったが、観点別正答率で見ると、「科学的な思考・表現」と「観察・実験での技能」が全国平均を上回っている。領域別で見ると、「地球」の分野で26.4ポイントと大きく全国平均を下回っている。</p> <p>学 3学年は、定期考査でも化学反応式正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 高い関心を持って自ら取り組む生徒を増やす取り組みが必要である。 正答率はわずかに全国平均を上回ったものの、根拠を持って説明する力をつける必要がある。 「地球」の分野と化学反応式については、確かな学力として定着させる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科への関心を高めるために、全学年で日常の場面と関連させて授業を展開するとともに、授業の中で生徒が科学的トピックスを発表する場面を設ける。 思考の流れをフローチャートで説明したり、グループで教えあったり、意見を交換したりと、表現する場面を増やしていく。 「地球」の分野は、単元ごとに授業の中で振り返りを行い確認していく。 元素記号、化学式を定着させた上で、化学反応式のしくみについて解説していく。 		
英語	<p>調 2学年は、全ての観点で全国平均を10.7ポイントから17.6ポイント上回った。ただし、語形・語法の知識・理解に関しては、全国平均を3.4ポイント上回るにとどまった。</p> <p>調 3学年も、全ての観点で全国平均を上回った。特に、全国平均と比較するとリスニングに関しては20.4ポイント、場面に応じて書く作文に関しては20.3ポイント高かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 2学年では、全ての観点で全国平均を上回ったが、語形・語法の知識理解の定着が十分ではなかった。 3学年では、全ての観点で全国平均を上回ったが、既習事項が定着していない生徒も見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 2学年は、毎時間の授業の最初の活動を工夫し、繰り返し文型を練習することで、語形・語法の活用定着を図る。また、実際のコミュニケーション活動を増やしていく中で、即興で対応できる力も身につけさせたい。そして、1年生の既習事項が定着していない生徒に対しては、個別指導の機会を設ける。 3学年は、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの基礎・基本を固め、実際のコミュニケーションにおいて活用できるように授業展開を工夫する。また、定期考査ごとに既習事項が定着していない生徒に対して、個別の支援をしていく。 		

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況